

記 録

岡山県新産のネコノメソウ属 2 種及び 88 年ぶりに確認されたニシノヤマタイミンガサ

岡山県自然保護センター 地職 恵

New record on two species of genus *Chrysosplenium* found in Okayama Prefecture and
a finding record after an interval of 88 years for *Parasenecio yatabei*

Megumi CHISHIKI, Okayama Prefectural Nature Conservation Center

キーワード: 岡山県新産, イワネコノメソウ, マルバネコノメソウ, ニシノヤマタイミンガサ.

はじめに

筆者は岡山県北部の山地において、植物調査中見慣れないユキノシタ科のネコノメソウ属を採集した。精査の結果、岡山県野生生物目録 (2003a) に未記載のイワネコノメソウとマルバネコノメソウの 2 種であることが判明した。また同所において岡山県版レッドデータブック (2003b) により絶滅種とされていたキク科のニシノヤマタイミンガサも併せて採集したのでその概要を報告する。調査は 2007 年 5 月 15 日, 2008 年 5 月 20 日, 8 月 12 日に行った。

本報告にあたり、ネコノメソウ属 2 種について元首都大学東京の若林三千男教授、東京大学総合研究博物館の池田博准教授からご教示をいただいた。記して深くお礼申し上げます。

生育地の概要

生育地は岡山県津山市勝北町の山地 (生育地保護のため詳細な産地名は記載しないものとする) で、標高約 820m の急な北斜面である。細い沢が一部で滝をなして流下する狭い谷は、足場の悪い湿った斜面で、サワグルミヤスギ等が生育する湿潤な環境である。本報告の植物のほかにも注目す

べき種を多数確認している。

結 果

イワネコノメソウ

Chrysosplenium echinus Maxim.

2007 年 5 月 15 日に採集されたネコノメソウ属の一標本は花期が過ぎたものであったが、以下の特徴からイワネコノメソウと同定された。1) 植物体は葉腋を除き茎・葉共に無毛で澄んだ緑色をしている、2) 茎に対生する葉には 3-5 対の内曲した鋸歯があり、花後伸びる無花枝の葉は先端ほど大きく、鋸歯も鋭く明瞭になり、先端にロゼットを作らない、3) 種子には隆条に列生する棍棒状突起がはっきり認められる。

県内には、葉が対生し葉腋を除き植物体が無毛の種にネコノメソウ *C. grayanum* が知られているが、本種は葉縁の鋸歯が鋭くはっきりしていることで区別される。分布は本州 (関東, 東海地方)・四国・九州 (大場, 1982) で岡山県は分布域に入っておらず、岡山県野生生物目録 (2003a) や広島県植物誌 (1997) にも本種の記録はなかった。翌年再度花の確認に赴くも、すでに花期が過ぎており確認はできなかった。

そこで県内のネコノメソウ属を調査されたことのある池田博准教授に県内の生育記録の有無を尋

連絡先: fvbs5493@mb.infoweb.ne.jp

ねたところ、未確認の返事と共に中国地方・兵庫県からも本種の報告が無いことをご教示いただいた。池田准教授の元に標本を送付し、ネコノメソウ属に詳しい若林三千男教授に見ていただき「花があれば確実だが、まずイワネコノメソウに間違いないであろう」との返事をいただいた。

沢沿いの常に湿った岩の上または湿土上に生育し、しばしばアオギヌゴケ科やシノブゴケ科のコケ植物群落中にも見られたが、いずれも小面積であり生育範囲は狭い。

標本の収蔵場所と標本番号を以下に示す。
自然保護センター：OPNCC -20456, 20457, 20458, 20459, 20460, 20461, 20467, 20468, 20469, 20967, 20968, 倉敷市立自然史博物館：KURA -170430, 170431

マルバネコノメソウ

Chrysosplenium ramosum Maxim.

本種は、前述のイワネコノメソウの標本の中に、一部マルバネコノメソウと思われる標本が混入していると、若林教授から指摘があったことから明らかになったものである。指摘いただいて改めて手元の標本を見直したところ、植物体には軟毛が散生し、葉はほぼ円形で対生、葉の縁は内曲する低い鈍鋸歯になるものがあり、イワネコノメソウとははっきりと違いが認められ、明らかにマルバネコノメソウと同定されるものであった。さらに現地では撮影した写真を改めて見直したところ、萼裂片が平開し、雄しべは8本で葯が黄色の花を確認することができた。同時期イワネコノメソウはすべて果実だったことから、マルバネコノメソウの花期はイワネコノメソウに比べやや遅いようである。

採集標本に2種が混入していたことからわかるように、マルバネコノメソウは前述のイワネコノメソウと同じ環境に生育する。しかし現地では本種を意識した調査はしておらず、今後の調査で生育状況を明らかにしたい。分布は北海道・本州(近畿地方以北)、朝鮮・中国(東北)・ウスリー・アムール(大場, 1982)とあり、イワネコノメソウが太平洋側の落葉樹林帯に分布するのに対し、マルバネコノメソウは北日本に生育の分布をもつ種であり、両種が同じ場所で生育していることは

大変興味深い。

標本の収蔵場所と標本番号を以下に示す。
自然保護センター：OPNCC -20465, 20466, 20969, 倉敷市立自然史博物館：KURA -170429

ニシノヤマタイミンガサ

Parasenecio yatabei (Matsum. et Koidz.) H.Koyama var. *occidentalis* (F. Maek. ex Kitam.) H.Koyama

ニシノヤマタイミンガサは岡山県レッドデータブック(2003b)により絶滅種にランクされているキク科コウモリソウ属の植物である。県内での確認は1919年に高梁市で宇野確雄氏が採集し、倉敷市立自然史博物館に収蔵されている標本のみである(岡山県, 2003b)。岡山県レッドデータブックのカテゴリー定義では、過去50年程度にわたり信頼できる生育の情報が得られておらず、すでに絶滅したと考えられるものを絶滅種としており、このたび88年ぶりに第2の生育地が確認されたことになる。

2007年5月の調査時には葉が展開したばかりであったが、掌状に切れ込む葉に対して柄は盾状とはならず、楕状につくタイミンガサから区別することができた。2008年8月に花茎を立てた株を確認し、総苞片は3-4個であることからニシノヤマタイミンガサと同定した。前述のネコノメソウ属生育地と同じ谷だが、本種は滝の傍の足場の定まらない急斜面で、ウワバミソウやミカエリソウが群生する中に生育する。根生葉が数枚の小さな群落が点在し、頭花をつけたものは数本にすぎなかった。生育地では高さが60-80cmに成長することと、大きな葉が目を引き。2007年には確認できた場所から2008年には消失しているところも見られた。

標本の収蔵場所と標本番号を以下に示す。
自然保護センター：OPNCC -20497, 20970, 20971

本報告の学名はBG Plants 和名-学名インデックス(2003-)を参考にした。

引用文献

広島大学理学部付属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会, 1997. 広島県植物誌, 832pp.

中国新聞社, 広島.
岡山県生活環境部自然環境課, 2003a. 岡山県野生生物目録. 397pp. 岡山県環境保全事業団, 岡山.
岡山県生活環境部自然環境課, 2003b. 岡山県版レッドデータブック. 12pls. +465pp. 岡山県環境保全事業団, 岡山.

大場秀章 1982. ネコノメソウ属. In: 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊治・富成忠夫(編), 日本の野生植物草本編Ⅱ, pp. 157-161. 平凡社, 東京.
米倉浩司・梶田忠(2003) 「BG Plants 和名-学名インデックス」(YList), http://bean.bio.chiba-u.jp/bgplants/ylist_main.html



図1. イワネコノメソウ 2007.5.15



図2. イワネコノメソウ 2008.5.20



図3. イワネコノメソウ 2008.5.20



図4. イワネコノメソウ 2008.8.12



図5. イワネコノメソウの種子の棍棒状突起



図8. ニシノヤマタイミンガサ 2007.5.20



図6. マルバネコノメソウ 2008.5.20



図9. ニシノヤマタイミンガサ 2008.5.15



図7. マルバネコノメソウ 2008.5.20



図10. ニシノヤマタイミンガサ 2008.8.12